

令和2年度奈良県公立高等学校入学者特色選抜学力検査問題 出題概要【国語】

1 出題の特徴

一絃琴という琴の奏者、峯岸一水さんの「下には下がらない」という言葉について、考えや思いを綴った詩人白井明大の随筆を素材とした。古典については、親しみやすく、かつ自ら考えることができるような古典を素材とする観点から、平易な文体で書かれた、江戸時代中期の国学者である本居宣長の随筆『玉勝間』を素材とした。

これらの素材を基に、国語の基礎的な事項が身に付いているかをみるとともに、内容の正確な理解ができるかをみた。

さらに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにすることをうたった学習指導要領「国語」の趣旨を踏まえ、目的や状況に応じて、資料などを効果的に用いて話すことができるかをみた。

2 各問題の概要

問題❶ 「下には下がらない」という言葉について、考えや思いを綴った随筆を素材として、漢字の読み書きの力や、語句の意味、内容の理解、楷書による書写などの基礎的・基本的な事項が身に付いているかをみた。

問題❷ 古典では、江戸時代の随筆を素材として、古典を読むための基礎的な力が身に付いているか、また、古典に親しむ態度が定着しているかをみた。(三)では、文章の内容について論理的に思考することができるかをみた。

問題❸ 話し合いを題材に、目的や状況に応じて効果的に話す力をみた。また、語句の意味や、発言の仕方について理解できるかをみた。

【出典】 白井明広『希望はいつも当たり前の言葉で語られる』

2019年6月28日発行、株式会社草思社